

健全化判断指標③

実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3ヶ年平均）

準元利償還金・・・繰出金（一般会計等→企業会計）中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



■算定方法

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費（元利償還金・準元利償還金等）} - \text{・充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模（臨時財政対策債を含む）} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

■熊本市の実質公債費比率

R6	$\frac{43,943 \text{ 百万円}}{214,886 \text{ 百万円}}$	—	$\frac{32,891 \text{ 百万円}}{23,595 \text{ 百万円}}$	=	5.78%	3ヶ年平均 5.9%
R5	$\frac{42,407 \text{ 百万円}}{207,949 \text{ 百万円}}$	—	$\frac{31,219 \text{ 百万円}}{23,342 \text{ 百万円}}$	=	6.06%	
R4	$\frac{41,572 \text{ 百万円}}{203,631 \text{ 百万円}}$	—	$\frac{30,948 \text{ 百万円}}{22,975 \text{ 百万円}}$	=	5.88%	

早期健全化ライン（25%）を下回っている